

文

學軌

完

學執完

四六
藏書

人々自ラ其身ヲ立テ其意ヲ治メ其業ヲ昌ニシテ
以テ其身ヲ遂ニユニシモノハ他ナシ身ヲ脩メ智ヲ
養フ才藝ヲ長スルニヤリ而テ其身ヲ脩メ智ヲ
開キ才藝ヲ長スルニヤリハ能ハズ是ヲ學
校ノ設テユニシテ日用常行言語書算ヲ
初メ士官農圃百工技藝及ニ法律政治天文醫
藥等ニ至リ遠凡人ノ營生ニ處テ事學ヲサレシメ
能ク其才ノアルトコロニ應レ勉勵シテ之ニ從事シ而テ
後初テ生ヲ治メ意ヲ興テ業ヲ昌スルヲ得ニヤリハ
學問ハ身ヲ立ルノ財不トモイフニモニシテ人々

ノ誰カ學ハスレテ有テハ夫ノ道路ニ迷ヒ飢餓ニ
陥リ家ヲ破リ身ヲ喪フ徒ノ如キ人畢竟不學ノ人
シテカハル道生ヲ出スルヤリ從來學校ノ設アリテモ
年ヲ歴ルイ久シトイハレ或ハ其道ヲ得サルヨリテ人
其方角ヲ誤リ際問ハズ人ノ事トシ農工商及
婦女子ニ至ラバ之ヲ度外ニオキ學問ノ何物ニシテ
解ス又士人以上ノ稱ヲ學ヲモノモ勤志ニシテ國家ノ
為ニト唱ヘ身ヲ盡スル基ナレバ知クモシテ或ハ詞章
記誦ニ止リ空理虚談ノ途ニ陥リ其論高尚ニ
似テモイハレ之ヲ身ニ行ヒ事ニ施スレバハサレモ人

少カラズ是ナリハ沿襲ノ習弊ニシテ文明普子
カラズ才藝ヲ長セスレバ貧乏破産喪家ノ徒多キ
ニ云ヒナリ是故ニ人タルモノハ學ハシムルハ必ズ之ヲ
學フニ宜ミテ其者ヲ誤ルカラス之ニ依リテ今般
父郡省ニテテ學制ヲ定メ進メ教則ヲモ改正シ
布告ニ及フニキニツキ自今以後一般ノ人咸
學ハシムルニ不學ノ人ナラズ家ニ不學ノ人ナ
カラス期ス人ノ父兄タルモノ宜シク此意ヲ體認
シ其愛育ノ情ヲ厚クシ其子弟ヲシテ必ズ學
徒事セシメサルカラスルモノナリ

高六學ニ至ラハ其人ノ餘才ニ任カストイ凡幼童
ノ子弟男女ノ別ナク小學ニ從事セシメサルモノハ其
父兄ノ越度タル事

但從未沿襲ノ獎學向ハ士人以上ノ事トシ國
家ノ為ニスト唱フルヲ以テ學費及其衣食ノ用
至ニ近多ク官ニ依頼シ之ヲ給スルニ非サハ學ハ
サレ支ト思ヒ一生ヲ自棄スルモノ少カラズ是皆落
ノ甚シキモノナリ自今以從此等ノ獎ヲ改メ一教
人氏他軍ヲ抛テ自ラ奉ルヲ必ス學ニ從事セシハ
ハハ攝心符

學軌

國學教授江幡延高述

學ニ扣漢ノ異有テ無シ然ラ漢ヲ主トスル者ハ徒
ニ我祭ヲ貴紳ヲ榮ヲ見テ其心ノ獨克舜孔子ニ比
ヲ知ズ之ヲ鄙ムルヲ至理ノ如ク扣ヲ宗トスル者
ハ徒ニ彼ノ教ヲ尙道ヲ重スルヲ見テ其意ノ亦天
神天祖ニ同ヲ知ズ之ヲ罵テ詐偽ノ如シ皆謬也詩
ニ天忠蒸民有物有則民之秉彝好是懿德ト云書ニ
天叙有典天秩有禮ト云又子識服厥父文字厥子並

恭履見見友于皇天與我民。ト云ヘリ。天トハ天神
ヲ指辭ニシテ高御產靈日神產靈日ノ二柱神ヲ謂
ル也。此二柱神ハ萬物ヲ產生玉フ神ナレバ人モ亦
其靈ニ因テ生出。可_レ以テ其心清明正直善ヲ善トシ
惡ヲ惡トセザル者ナシ。是詩書ノ所謂民彝ニシテ
孔子ノ直ト云。孟子ノ善ト云モ亦是也。然凡物之不
齊。物之情也。天地ノ大萬物ノ多。神亦之ヲシテ齊整
ナウシムルヲ能ハザレバ人ノ性ヲ稟ル自ウ淺深
厚薄ノ差無_レテ得_ズ。太_大宍牟逆神ノ兄弟二十八神

ノ如キ。惡神有_テ見テモ知ヘクシテ人性之ヲ物ニ
譬レバ猶水ノ如シ。水ハ至テ清者ナレ。凡其久ニ及
テハ水鋪之ヲ暗マシ。塵芥之ヲ濁ラス。人モ世ニ處
ノ久キ生ヲ計ノ切_トヨリ其初ノ清明者漸變ジテ汚
穢トナリ。其初ノ正直者漸變ジテ邪曲トナル者ア
リ。故ニ神也ニモ亦汚穢ヲ去テ清明ニ復シ邪曲ヲ
禁ジテ正直ニ趨_スシムル法有_テテ目テ被_ト云_リ。然而
其天神ニ察タル所ノ者ハ未嘗漸變消滅セス。是以
苟_モ惡_ク作者ヲ見_レバ私_ニ咎_ム小人モ猶且之ヲ惡_ム。

ヲ知リ甚善ヲ作者ヲ見レバ愚ノ匹夫モ猶且之
ヲ愛スルヲ知レリ況天神ニ於テヲヤ既ニ之ヲ
愛スレバ降スニ福ヲ以テセラルベカラズ既ニ之ヲ
惡シバ降スニ禍ヲ以テセラルベカラズ故ニ書ニ天道
福善禍淫ト云孔子モ爲善者天報之以福爲不善者
天報之以禍トノ玉ヘリ報スルニ禍ヲ以テスル者ヲ
禍津自神トナシ報スルニ福ヲ以テスル者ヲ直日神
トナシテ其政ヲ幽冥ノ中ニ司者即大虎牟遲神ト
リ此神任テ天神ニ受タルヲ以テ授之ヲ天トイヘル

ノミ偶一二善ヲ作テ禍ヲ受惡ヲ作テ福ヲ受ニ似
タル者無ニ非スト雖死神ノ心ノ大因人智ノ能測
知所ニ非レバ亦安其禍ニ似タル者ハ却テ福ニシ
テ其福ニ似タル者ハ却テ禍ナラザルヲ知ンヤ
是以ニ之ヲ天神ノ命ニ歸シ所遇ヲ以其心ヲ忖ニ
セテ善ヲ見テハ則テ惡ヲ見テハ則テ福ヲ見テハ
一日ヲ慎ム是之ヲ天命ヲ畏ト云中庸ニモ天命之
謂性率性之謂道修道之謂教ト云誠者天之道也誠
之者人之道也ト云リ夫如此也彼亦與孔子ノ意何

以我天禰天祖ノ心ニ異ナラシヤ予且我國ノ古書
ヲ舉テ以之ヲ徵セン萬葉集ノ歌ニ於保奈牟知須
久奈比古奈野缺代欲嬰伊比都御榮良之父母乎見
波多布カ久奈子見波可奈之久米具之宇都世美能
奈乃許等和利止可久佐亦余伊比家流物乎曰ト云
リ此須久奈比古奈禰ハ天禰ナル禰彦集日禰ノ御
子ナレバ其御教ヲ承テ此民ニ施セルモ亦可知也
又古事記八十矛禰ノ后ノ歌ニ夜知富許能迦微能
美許登夜阿智治富久是奴斯許曾波速奈伊麻世

宇知微流斯麻能佐岐邪岐加岐微流伊積能佐岐亦
知受和加久佐能都麻母多勢良米阿波母與實逢新
阿禮婆耶建岐生遠波耶志耶建岐弓許麻波耶跪
ト云リ此八十矛禰ト云ハ即大穴牟遲禰也昔當時
既ニ不見兩夫ノ教有ニ非ンバ其言安此ニ至リテ
得シヤ然ラバ萬葉集ノ歌ニ云ル父子夫婦ノ教モ
皆天禰ニ出タルヲ可疑ヲ待ザル也抑天祖天禰ト
天上ニ相議シ忠孝ヲ以國ヲ建ニ至テハ則昭明赫
著之ヲ古書ニ徵スルヲ待テ請且陳スルニ其略

ヲ以セン天祖ノ天下ヲ天孫ニ傳フル事自三皇ヲ
授テ天位ノ信トシ之ヲ千万世ニ傳テ天胤ノ尊儀
予不可犯君臣ノ義定マツテ今ニ至レリ是教ニ忠
ヲ以セルニ非スヤ天祖ノ神器ヲ授ル特ニ寶鏡ヲ
執テコレヲ視テ猶昔ヲ視カ如セヨト視レ玉ヒシ
ヨリ千万世ノ久キ奉守敢テ墜サス其殃スル所ノ
影ハ即天祖ノ遺體ニシテ視テ猶天祖ヲ視カ如ナ
レバ父子ノ親敬シテ今ニ至リ是教ニ孝ヲ以セル
ニ非スヤ夫忠孝ハ天倫ノ大ナル者ニシテ天祖天

神ト共ニ之ヲ天下ヲ傳ルノ初ニ建其教ヲ由道ヲ
重スルト豈獨堯舜孔子耳ナラシヤ然而上世風氣
溘朴人人其道ニ違由異端邪說之ヲ闢スルト有マ
シレカバ教ノ目モ未立ザリシヲ應神天皇百濟ノ
實士阿知古師ヲ言ニ因博士和彥吉師及辰孫王ヲ
徵テ太子苑迎稚郎子ノ師トナシ授ニ彼國ノ典籍
ヲ以セシメ玉ヒシヨリ堯舜孔子ノ書始テ我國ニ
行ハル當時我國コレヲ彼ニ較アレバ皆餘有テ文
或足ス實既ニ完シテ名或闕タルト有於於是乎彼カ

餘春所ヲ資テ以我足ナル所ヲ補彼カ親義忠孝ノ
名ヲ取テ以我君臣父子ノ實ニ加ヘレ耳未始ヨリ
道無リレニハ非也未始ヨリ教無リレニハ非也佛
法西來スルニ至テハ實ニ本地垂跡ノ説ヲ以テ我
神明ヲ滑リ虛無寂滅ノ教ヲ以我人倫ヲ無スル巴
ナラズ天下ヲ率テ其所謂佛法僧ノ三寶ヲ奉ゼレ
ム是皆天然ノ物ニレテ我固有ノ者ニ非レハ其勢
名ヲ設テ之ニ分テテ得々於是乎始テ神道ノ
稱アリ後ノ古ヲ學フ者之ヲ實ニ徵スル丁ヲ知ズ

徒ニ之ヲ名ニ求テ名得テ見ベカラザレバ則古未
嘗道有テ古未嘗教有テト云口ヲ極テ聖賢ヲ罵詈
シ人欲ヲ以天理トナシ天命ヲ以箕子ノ餒ノ具ト
ナスニ至ル噫亦甚レ然爾其譯此ニ至者豈他有シ
ヤ我天神天祖ノ心因彼堯舜孔子ノ意ニ同ヲ知ザ
レバ也雖然特ニ文教ノ同ヲ論耳詩又武備ノ同
ヲ論セン我國風タル賦矢ノ利戈矛ノ用既ニ神代
ニ見テ寶劍又與テ三嘉ノ一ニ居其武備充足セル
万国ノ比非レバ號ノ細戈利足國ト云天祖ノ天下

ヲ天孫ニ傳ル天恩百命ヲシテ天穗津大來日ヲ奉
啓行タラレノ神武天皇ニ追テハ來日ニ奉スルニ
物部ヲ以シ崇神天皇ハ兵器ヲ險學ノ諸社ニ納車
仁天皇ハ兵器ヲ以神ヲ祭リヲ始其世世武ヲ尚ヤ
如此彼國ニ在テモ古ハ子弟功臣ヲ各國ニ封建シ
五服ヲ分テ京畿ノ藩屏トシ男子生レバ桑弧蓬矢
四方ヲ射テ必事有ベキヲ示シ既ニ長クレバ習ス
ニ鄉射禮ヲ以シテ征戰有奇ニ天下ヲ舉テ役ニ從
フ夫如此其武ヲ尚モ亦豈獨我國ノミナラシヤ抑

文武ノ道本一ナリ文トハ天地ヲ經緯スルヲ謂武
トハ禍亂ヲ戡定スルヲ謂故ニ禍亂ヲ戡定セント
欲スル者ハ必先天地ヲ經緯スルコトヲ務メ天地ヲ
經緯セント欲スル者ハ必先禍亂ヲ戡定スルコトヲ
務ム兩者未始ヨリ相頡スンハアラウクシテ今ハ則
分テニトナリ文士ハ書史ヲ事トシ武夫ハ劍槍ヲ
事トシ彼此譁笑相勝シコトヲ求ム夫劍槍ハ武ナラ
ザルニ非ズ武ノ尤末者也書史ハ文ナラザルニ非
ズ文ノ極テ小者也然ル書史ハ以道義ヲ明ニスル

所劍捨ハ以心膽ヲ煉所心膽煉ヤレバ以禍亂ヲ戢
定スルヲ能ハス道義明ナラザレハ以天能ヲ經緯
スルヲ能ハスレテ文ノ弊或流レテ弱トナリ武ノ
弊或流テ愚トナル愚ナレバ之ヲ教ニ文ヲ以セザ
ルベカウス弱ナレバ之ヲ矯ニ武ヲ以セザルベカ
ウス是以士ヲ率ノ要ハ必文武ヲ合セテ一トナス
トヨ昔景神天皇ノ兵器ヲ諸社ニ納奉仁天皇ノ集
醫ヲ以神ヲ祭トヲ始玉ヒレト皆偶然ニ非マレテ
中世蒞鎮ヲ四道將軍ニ賜ノ日侍儒ヲレテ經史ノ

要ヲ講シ律條ノ急者ヲ授レムルモ亦唯此意耳抑
我國ノ人士自古感憤激昂名ヲ汚シ先ヲ辱ヲ以相
誅死ヲ視歸々如ニシテ其跡從容不迫流風餘韻悠
然拘スヘキ者世トレテ之無ハ無ク目シテ和魂ト
稱スル者固本土ノ然ラレムル所ニ由ト雖モ亦安
上世文武ヲ合テ一トナスノ明驗大效ニ非ルヲ無
ク得シヤ詩ニハ允文允武暉格烈風ト云書ニハ
操文教者武備ト云周ハ六藝ノ科ヲ立テ射御ヲ其
中ニ置孔子モ有文事必有武備ト云リ子路ヤ非有

ヤ同文ヲ孔門ニ學者ニシテ尙有ハ矛ヲ奮テ齊軍
ニ入り子路ハ三軍ヲ行ヲ與ニスルヲ以自任ス夫
知此也其文武ヲ合テ一トナスモ亦豈獨我國ノミ
ナラシヤ嗚呼彼ノ我ニ於ル如比其具シテ其故同
キ者ハ祭ヲ以教トナシ教ヲ以政トナスニアリ
又更ニ之ヲ陳セン易ニ觀望而不爲有享祭者下觀
尙化也觀天之神道而四時不忒聖人以神道設教而
天下服矣ト云リ夫四時ノ不忒ハ孚ニシテ天地ノ
間鬼神ヨリ誠ナルハナレ故ニ神人ノ相感スル只

幽テ未薦ヤルノ間ニ在リ人苟其至誠ニ觀感セバ
誠教テ化セザルベキ昔ハ天祖何神ヲ祭ヲ知スト
兼凡官政有テ以醇衣ヲ忌服屋ニ織天下ヲ天孫ニ
傳ニ及テハ授ル處ノ御靈代ヲ屆殿ニ祭レノ天祖
天ニ在テ下土ヲ照臨シ天孫誠ヲ下ニ盡セリ故ニ
神武天皇ノ中土ヲ平ル先神誠ヲ祀祭レ背ニ日禱
ノ威ヲ負祭ヲ丹生川上ニ設ケ其既ニ功ヲ成ニ及
テハ則特ニ靈時ヲ鳥見ニ立以天神天祖ニ報祭ス
是皆天祖ノ遺意ヲ奉スル所ニ非ハ無レテ祭神天

皇ハ天祖ノ御靈代ト求ヲ同スルヲ以、畏敬、自安セ
ズ之ヲ倭ノ筮、縋ニ移シ天下ト孝教ノ心ヲ其ニシ
更ニ大物主、倭國魂ヲ祭リ遂ニ天社國祀ヲ定ム爾
後世世相嗣山陵ヲ秩シ祀典ヲ崇其以誠敬ヲ盡所
ノ者備ハクサルハ無レテ本ニ報シ祖ヲ尊ノ義ニ
至テハ則一ニ之ヲ大嘗ニ寓ス天祖嘗、新穀ノ種ヲ
得テ之ヲ御田ニ種又口ニ齒ヲ合テ始テ春、夏ノ道
アリ是ヲ万民衣食ノ原トス故ニ祭ノ日天孫親嘗
政ニ配テ供御ノ飯ヲ薦阿波ノ齋部氏ヲレテ荒郊

服ヲ獻シム是皆本ニ報スル所ニシテ中臣氏ハ天
兒屋根命ニ出ルヲ以天降ノ壽詞ヲ奏シ齋部氏ハ
天太玉命ニ出ルヲ以神璽ノ鏡劍ヲ奉リ其他ノ臣
連八十伴緒ニ至マテ皆其職ヲ世世ニセザルハ無
千万世猶新ニ命ヲ天祖ニ承ノ日ノ如夫天祖ノ遺
體ヲ以天祖ノ事ニ庸肅然、愷然トシテ當初ノ儀ヲ
今日ニ行、如此ナレハ君臣親戚、洋洋乎トシテ天祖
ノ左右ニ在、ヲ如ク臣連八十伴緒モ亦皆其祖嘗天
祖天孫ニ事民ニ功徳有テ祀典列レル天兒屋根命

天太王命ノ如ナラザル者無レハ氏ノ宗タル姓
ノ人人皆各族人ヲ糾緝シテ以其祭ヲ主リ入テハ
以其祖ニ追孝レ出テハ以大祭ニ供奉シ皆其祖先
ノ遺體ヲ以テ祖先ノ事ヲ行惻然悚然トシテ乃祖ノ
以テ祖天孫ニ敬事セシ所ヲ念安其祖ヲ忘其君ニ
背ニ忍ンヤ於是乎孝敬ノ心父以子ニ傳子以孫ニ
傳天施ヲ極テ猶下日ノ如シ蓋諸氏人ノ姓姓ニ於
ル姓姓ノ天孫ニ於ル義ヲ以スレハ君臣ナリ親ヲ
以スレハ父子ナリ宗族也孝國忠ニ外ナラズシテ

忠モ亦孝ニ外ナラズ忠孝一教言ハスシテ化ス是
其言舉セ又國ト稱スル所以ニシテ民唯天祖ヲ敬
シ天祖ヲ重スルコトヲ知所嚮一定異物ヲ見ズ民志
一ニシテ天人合ス宜ナリ天祖ノ寶祚之隆當與天
壤無窮矣ト詔玉ヘルヤ故ニ中庸ニモ郊社之礼所
以事上帝也宗廟之礼所以祀其先也明乎郊社之礼
諦嘗之義治國其知所嚮乎ト云リ我國ノ大嘗ハ
天祖天祖ヲ配享テ天ニ事先ヲ祀ノ義ヲ兼大嘗嘗
ノ祭ハ郊ト宗廟トノ義ヲ兼テ彼ニ社稷ノ祀有ハ

我ニ地主保食ノ神ノ祭アリ彼ニ四堂山川群神ノ
祀有ハ我ニ山祇田象少童飯長埴山草野匂匂逆馳
神等ノ祭有彼ニ司命國門泰厲國行戶竈等ノ祀有
ハ我ニ鎮魂宮中御玉座摩御門鎮火道祭逆知祭
及竈神等ノ祭有彼ニ祈年觀師雨師等ノ祀有ハ我
ニ祈年大忌風神鎮奉等ノ祭有彼ニ柱匂龍舞禹禊
契等ノ祀有ハ我ニ皇子皇孫名賢ノ世ニ功德アル
大鳥ニ鹿鹿鳥香鳥春日平野等ノ如キ祭有其同キ
了既ニ如此ニシテ周人祭祀ニ因民ヲ衡法ヲ讀其

過惡有者ヲ糾戒スレハ我モ亦冬夏二季毎ニ親王
諸王以下公卿諸臣ヲ國門ニ會シ天監國罪ヲ過犯
セル者ヲシテ藏具ヲ出シム是皆律令ヲ講スルノ
法ニシテ祭祀ニ寓スルニ文教ヲ以セル也周ノ制
諸度祭ヲ設必自射獵射ヲ薦ノ役有毎ニ兵ヲ廟ニ
投陳バ輒行ニ飲至ノ礼ヲ以シテ我モ亦征戰アル
毎ニ天皇必先神祇ヲ祀祭シ敢テ自尊ニセザルヲ
示ス是皆民志ヲ一ニスルノ法ニシテ祭祀ニ寓ス
ルニ武備ヲ以セル也夫武備ヤ文教ヤ我天神太祖

ノ以天下ヲ經綸スル所ニシテ之ヲ祭祀ニ寓スル
猶且如此其風ケレバ安往トシテカ國カラザラシ
眉礼ニ取神ヲ八則ノ首トシ祀礼ヲ十二教ノ首ト
シテ北畠准房ノ職原抄ニモ天兒屋根命^{天兒屋根命}命^命天種子
命^命奉主祭祀事是乃執朝政之儀也ト云ハ祭國政ニ
異ナクマシテ政因祭ニ異トラス是其祭ヲ訓シテ
麻都理トヨミ政ヲ訓シテ麻都理許登トヨメル所
也天智天皇ノ儲位ニ在シヤ淡磨ノ文物ヲ欣羨シ
孝德天皇ヲ輔テ祭政ヲ分テ文武ヲニニシ郡縣ヲ

立テ封建ヲ廢シ臣連八十伴^{臣連八十伴}諸ノ世職ヲ奪ヒテ之
ヲ八省百官ニ歸シ天神天祖ノ法ニ於ル變セザル
所無ニ至テ猶且群臣ノ奏ヲ納先師^{先師}祇^祇祭^祭テ後政
事ヲ議シ其令條ヲ創撰スルニ及テモ亦隋唐ノ三
師ニ擬シ神祇官ヲ舉テ大政官ノ上ニ置リ其祭政
ヲ分ハ固既ニ課テリト雖死政事ヲ後ニシ神事ヲ
先ニスルニ至テハ則祭ノ教タルヲ知レバ也故ニ
礼ニ祭者教之本也ト云國語ニ祀所以昭孝^{昭孝}在民^{在民}撫
國家定百姓也ト云リ是其以同所也蓋我國古ニハ

五方各君長有テ相統一セズ大宛牟婁之ヲ討平
シ天孫ニ奉レヨリ君臣ノ分長ク定レリ神武天皇
中土ヲ平ルニ及テ其功アル者ヲ近畿ニ封シ崇神
天皇之ニ嗣皇子豐城入彦命ヲシテ東方ヲ鎮撫セ
レノ四道將軍ヲ遣テ不庭ヲ征討ス最行天皇其國
ヲ恢弘シ皇子ノ茅土ヲ受レ者七十七人ニレテ思
ニ豐城入彦命ノ孫彥狹島王ヲ東山道十五國ノ都
督ニ拜ス成務天皇五ニ基緒ヲ承天下ノ國郡縣邑
ヲ分定國郡ニハ造長ヲ立縣邑ニハ首及狝置ヲ置

和銅ノ比マテハ其國造タル者凡二百二十餘人八
十戸ニテ狝置ヲ置十狝置ニ一國造ヲ置絲綸繩聯
以天下ヲ統制セリ彼國造ノ時四番十二教有テ舜
亦之ニ治夏ニ及テハ其封ヲ受ル者万國有ト稱シ
テ武王ノ殷ヲ伐ヤ東會スル者八百諸侯ト云ヒ春
秋ノ時ニ至ニ及テハ其經傳ニ見タル者凡百七十
國其廢絶定置得テ詳ニスベカラスト雖モ聖皆我
ト封建ヲ以體ヲナス者耳夫封建ヲ以體ヲナス者
ハ諸侯各其土ヲ土トシ其民ヲ民トシテ憲法皆爵

ノ能制スル所ニ非レバ則其勢教ヲ祭祀ニ寓シテ
以民志ヲ一ニセザルベカラズ故ヲ以知此其風也
雖然我ハ万民ヲ以テ君ヲ奉スルヲ宗トシ彼ハ一
人ヲ以テ万民ヲ治テ要トス故ニ彼ハ三皇五帝代代
興テ其世ヲ平治ス堯ノ舜ヲ舉ル禹ヲ舉ル皆其
世ニ繼テ治功ヲ成スベキヲ知テ讓ニ位ヲ以セル
也湯ノ桀ヲ放武王ノ紂ヲ伐モ亦其心ニ料リテ苟
民ニ利有バ紂逆ノ名避ル所ニ非ズト是以此ニ至
ル者ニレテ彼ニ在テハ或可我ニ在テハ固不可是

其以異所也苟其異ナル所ヲ知ント欲セバ頃先其
同所ヲ明ニスベシ菅原贈太政大臣モ國學之所要
幾致論涉古今究天人自非知禮樂才不能闢其闕矣
矣ト云繁式部モ所才を和トシてこがるはやた
一ひの世ニ同らるゝもつゝ信らえと云り
才ハ即漢才也夫贈太政大臣ハ本儒學ノ家ヨリ出
身シ五へバ其漢才ヲ以テ和鬼ニ配スルハ固宜也式
部ハ才學有ト雖モ亦一婦人耳一婦人猶且此言ヲ
出シテ堂堂タル丈夫見此ニ及バサル者何ヤ祭

以教トナシ教ヲ以政トナスヲ知ザレバ也昔ハ舜
契ヲ舉テ司徒タケレメ教ルニ人倫ヲ以レテ夏殷
周ノ盛ナル皆庠序學校有テ以人倫ヲ明ニセリ中
世陪唐ノ三師ヲ三公ノ上ニ位ニ近時明ノ宰相ヲ
置スレテ政ヲ六閣學士ニ總タル是皆政教ヲ一ニ
スル所ニレテ天智天皇ノ祭政ヲ分モ亦必此ニ見
テリ故ニ未戰ナラズレテ學校ヲ興シ博士ヲ置公
卿諸臣ヲ尊テ公卿諸臣モ亦其意ヲ體シ源氏ハ其
學院ヲ建攝氏ハ學館院ヲ建藤原氏和氣氏ハ勸學

弘文ノ兩院ヲ建氏人ノ政ニ從者ヲシテ先講スル
ニ教ヲ以セシ丁ヲ務ムム蓋教ハ以政ヲ出ス所ニ
レテ政ハ以教ヲ行フ所ナレバ兩ノ者一ナラザル
ベカウズシテ後世ニ至テハ則然ラズ政ハ大夫ニ
委シ教ハ先生ニ任シ政府ハ自政府學校ハ自學校
未始ヨリ是變モ關涉セザル者ノ如ナレバ學問事
業モ亦自判然分レテ二トナレリ夫學問ハ以事業
ヲ學所ナレバ一經ヲ讀一史ヲ閱スル毎ニ輒必之
ヲ眼前ノ實事ニ徴シ隋會スルニ龍唐不經ノ談ヲ

以セテ心ヲ潛メカクニシテ天下國家ノ用ニ適ス
ル者ヲ求ハ其教ヲ尚道ヲ重スルヲ以意トスルハ
獨彼堯舜孔子ノミナラスシテ其祭ヲ貴神ヲ崇ル
ヲ以心トスルハ獨我天神天祖ノミナラザルヲ知
ベキ也又安厝屑子トシテ異同ヲ較スル丁チ厝シ
ヤ

天保十三年京都ニテ學有院ヲ創建セウレシ
時三條大納言實萬卿文ヲ撰シテ唐司關白太
政大臣政通公ノ書レタル聯語ニ履聖人之至

道崇皇國之懿良不讀聖經何以修身不通國典
何以養正明辨之務行之トイヘリ如此ナレバ
和漢丁教ノ命ハ期セズレテ先帝ノ教
旨ニ合ヘル所ニシテ飽ヘク崇ムヘキノ至ナ
ラズヤ

跋

靈章上情計れ及んば感ずるも之を

天津抄に授玉つるよりして此の月をい

はる一了の章上るよきもわづらひぬ

白雲流余れて流せし時より天津の朝より

高直坐れ大直坐と非為伏の後と五部計

り直直せく齋をせむし招へハ尺復れ

曲妙とてちとてつらしや草藤れ叙れ處

茂は成化は荒ゆる國と平たむつてあり
國より大に色に好波れあり八十あり
多く産より大積成に吹見れ沙のハ沙出
りてる浪りあり一ハ海外の國とも近く後
にありては色ありて是國に打込白く
るもろを産に白く國の向に國より
國にも好くす人々も優りて堅かせ
の厚人れあり色に色もろくあり

茂とすしんて既成者人草れると有る
とて是りつる自ら訪るに恨みあり
明定して下を告ぐに色代りてを所用に
了と政に轉りてこれ一前も是れ政に快
通音い幸来文字の石をぬきわたりて
ありては下を告ぐに色代りてを所用に
同たりてを何れ人の言はれりて
物く向もをれりて

君見たふくしつゝおろつたふくひ序の巻華
とて下しつゝ一冊華更なつて今も
りえ思ふ向いあつてと云ふとあはれ
いあつて思ふとあはれと云ふとあはれ
いあつて思ふとあはれと云ふとあはれ
いあつて思ふとあはれと云ふとあはれ
いあつて思ふとあはれと云ふとあはれ
いあつて思ふとあはれと云ふとあはれ

慶應二年二月 島川成一



